



愛国駅に展示されているSL。再び走行させることはできないが、愛国のシンボルになっている

# 呼び込め純愛

愛国・幸福駅・恋人の聖地

上

# 鉄路廃止も、なお魅力

「あの当時は愛国―幸福間の列車を残すため必死だった。3、4年間は社業を放り出してた」  
旧国鉄広尾線愛国・幸福駅が「恋人の聖地」に認定される約20年前。柳月の田村昇社長は、地元若手経済人でつくる「愛国・幸福の夢を語る会」の代表幹事として同志たちと路線存続に奔走していた。1987年2月、南十勝開拓の原動力だった広尾線は、半世紀余りの歴史に幕を下ろしたが、「初詣列車や両駅間の雪

中仮装マラソン、SL(蒸気機関車)の人間地上絵…。存続に向けていろいろなことをやった」(田村社長)。

## 走行に「認可の壁」

愛国・幸福間の走行だけでも存続させようと、SLを走らせている大井川鐵道(静岡)や連産省に走行の可能性の有無を飛び込みで聞き回

## 知名度は全国区

た。運輸省から「自治体が絡んだ第三セクターや大手運送会社の子会社なら認可する」という話だったが、第三セクター設立に市は乗り気ではなかった。結局「認可の壁」で断念した。

田村社長は当初、現在音更にあるスイートピアガーデンの建設候補地にしていたほど愛国への思い入れは強い。「愛国・幸福駅は十勝で一番、全国的な知名度があるのに変わりは無い。恋人の聖地選定は、若い人が十勝に来るきっかけになる」と歓迎する。

### 普遍的な願望示す

近年の愛国・幸福駅の観光客は幸福駅だけで年間約20万人といわれる。幸福駅はとかち帯広空港に近く、観光客が最初に立ち寄る観光スポット。愛や幸福は人類の普遍的な願望だけに、分かりやすさも強みだ。

市観光課の植松秀訓課長は「なぜ過去ブームになったのか。人々が両駅の地名にすぐりたい気持ちがあったから」と説明する。幸福駅で売店を長年営む廣岡敷さんは「幸福とい

う夢を求めて十勝に来る。買った切符には、2人だけの愛をつなぐルールを込める。それは一度乗車したらもう心変わりできない愛の約束なんだ」と語る。

両駅の駅舎内には、恋人以外からも願いを込められた多くの手紙が張られている。「パパとママよりの愛へ」いつまでも忘れない。いつまでも一緒だからね「これからもずっと仲良しだよ。永遠の友情が続きますように」愛国から力をください「これらの願いは両駅の魅力を示す証拠。ブームの時から変わらない十勝の観光資源だ。」



帯広市内の愛国・幸福両駅が7月、NPO地域活性化支援センター(静岡県)が認定している「恋人の聖地」に選ばれた。78年にNHKの「新日本紀行」放映を機に「愛の国から幸福へ」のキャッチフレーズで全国的ブームを起してから35年。広尾線廃止後もなお、両駅は潜在的な魅力を秘めており、関係者の思いや十勝の人を呼び込む観光戦略などを探った。

## 若い人訪れるきっかけに